

上市中学校部活動の地域への展開に対する保護者の皆さまからのご質問 (Q&A)

Q 文化部はどうか、それぞれの部活動がどうか早期に具体的に示してほしい。

A 文化部も同様に、地域移行が可能な部活動は移行をしていきたいと考えている。地域移行ができない場合、地域移行をしない他の運動部と同様に、校内を活動場所として教員が顧問となり、活動を継続していく予定である。

Q 教員の長時間労働削減という目的は理解できるが、削減した時間分での教育の質の向上に対する提案が何もない。今後、教育委員会を含め、学校、教員、教育の質について考えて欲しい。

A 部活動指導時間の縮減により、教員は今まで以上に一人一人の生徒に丁寧に関わりながら、自己の指導力向上に向けて、授業の準備や自己研鑽に取り組むことができるようになり、授業や生徒指導に好影響が出るものと考えている。

また部活動の地域移行以外にも、学校、教員が担ってきた業務の一つ一つを見直しており、教育委員会としても、例えば給食費の支払業務の町への移管、校務支援システムの導入などの支援を行っている。

Q 教員の長時間勤務については、SNS 等インターネットトラブルなど、専門家で対応すべきところを教員に負担させていないか。町、教育委員会の対応で教員の負担を減らしてほしい。また、トラブルが複雑化しており、一人の教員では対応は難しいと思う。

A 教育委員会では、有料サイトへのアクセスによる高額請求や、不適切な画像掲載などネットトラブルの報告があった場合は、教育事務所や警察署などの関係機関に相談しながら迅速な対応に努めている。

一方、ネットいじめについては、外部から見えにくく、匿名性が高いなどの性質を有するため、なかなか学校としても認知しきれないケースがあることから、日頃から、生徒の見守りや信頼関係の構築に努め、いじめを訴えやすい環境を整えることや、情報モラル教育を推進することが重要と考えている。なお、ネットいじめが発覚した場合、全校体制で対応するとともに、関係機関等にも協力を仰ぎながら解決に向けた取組みを進めており、決して一人の教員に対応を任せているわけではない。

また、このようなトラブルを未然に防ぐためには、各家庭でルールを決めるなどの取り組みも大切であると考えているので、ご協力をお願いしたい。

Q 土日、祝日の説明はあったが長期休業時の対応はどのようになるのか。

A 長期休業中は、授業等がないため各部活動で設定する日時で活動を行うこととなるが、課業期間と同様に、学校の休業日である土日、祝日は活動を行わず、活動時間も教員の勤務時間内となる。

Q 地域に移行するのであれば、施設受入体制の充実がされないと納得がいかない。補助金含め

どのように考えているのか。

A 地域への移行を行った場合も、町教育委員会所管の施設の使用料は基本的に無料または町負担と考えている。なお、当該施設については、地域クラブ以外の一般の利用者もいることから、利用日時等に関しては教育委員会で調整を行うこととしている。

また、補助金についても地域移行により減額することがないよう対応していく。

Q 保護者への説明が不足しており具体的な見通しが見えない。保護者の声、思いを聞く必要がある。

A どの部活動が地域に移行できるのかについては、指導者の確保などの課題もあることから、現在、関係団体等と協議を進めているところである。その進捗状況については、随時、ホームページなどでお知らせしていきたい。

なお、今回お示しした Q&A も踏まえ、保護者の皆さまから更にご意見などいただきたいと考えている。

Q 地域で受け皿のない部となった場合、親の協力（ボランティア）で活動を広げられる場合もあると思う。受け皿のない場合に学校と親をつなぐ方法は何か考えているか。

A 地域での受け皿がなく、地域移行ができない場合は、これまでどおり教員が顧問となり、令和5年度からは校内を活動場所として、活動を継続していく予定としているが、保護者の皆さまがボランティアとして参加いただけることは大変ありがたい。そうした場合は、ぜひ学校にお申し出いただきたい。

Q 部活動地域移行は仕方ないと思う。教員の指導がなくてもかまわないので体育館だけ放課後の時間に子どもたちが使用できるように環境を整えることは難しいか。

A 地域移行ができない部活動は、教員が顧問となって校内で活動することとなるため、体育館使用の調整が必要と考えている。このため、地域移行した部活動は、学校開放事業の時間帯での使用を除き、体育館を使用することは難しいものと思われる。

なお、地域クラブは、基本的な活動場所とは別に、放課後の一定時間、校舎内、例えば廊下などで、自主トレーニングなどの活動ができるよう、教員以外の見守り体制も含め検討している。

Q 基本的に部活動に所属しなければならないということだったと思うが、どうなるのか。

A 「部活動は生徒の自主的、自発的な参加により行われる」とされていることから、以前より上市中学校は全員部活動制をとっておらず、部活動への加入は任意としている。

Q 部活動の活動内容が内申にどのような影響があるのか分からないが、移行によって不利益とならないようにしてほしい。

A 地域クラブでの活動状況については、地域クラブから報告してもらう仕組みを検討している。内申書の部活動等の記載欄には現在も部活動の様子以外に学校外の団体等での活動状況を記載

することとなっている。

Q 町の枠を越えた活動の推進も必要ではないか。

A 現在、ソフトボール、サッカー、硬式野球等で町外のクラブチームに所属している生徒がいる。町の地域クラブについては、希望があれば近隣市町村の生徒も受け入れる方向で協議をしている。また、競技によっては近隣市町村と協力して地域クラブを立ち上げることも検討し、子どもたちが希望する活動ができるように努めていきたい。

Q 地域移行で教員の負担はなくなるが、クラブ指導者に負担がかかる。みんな仕事をもっているのに夜間に指導してくれる人はいるのか。その人たちに補助金や報酬などなんらかの手当を町から出さないと手を挙げてくれる人はいないのではないかと心配である。

A 指導者が確保でき、自主運営が可能な部活動を地域クラブに移行することとしている。このため、町内の競技団体、スポーツ少年団、スポーツエキスパートの方などと連携しながら、指導者の確保も含め、移行に向け協議を行っているところである。

なお、地域クラブを立ち上げていただいた場合は、大会引率の際、町が指導者に大会時の日当など報酬を支払うこととしている。

また、部活動指導員への報酬以外にも、日頃の指導や生徒の活動に必要な経費についての支援は必要と考えており、令和5年度からの移行に向け、検討を行っているところである。

Q 地域クラブと各種団体の違いが分からない。現存するものについては明記してほしい。

A 現在の部活動を基盤として、指導者を確保し、生徒を受け入れるため新たに立ち上げていただく、自主運営が可能な組織を「地域クラブ」としている。

地域クラブには、部活動の地域移行に伴い、新たに設置する「上市町地域クラブ推進委員会」に加入していただくこととしている。この推進委員会に加入しているクラブについては、町からの活動補助金の交付、指導者向けの各種講習会の開催、各地域クラブのPR活動を行っていく予定としている。

なお、現時点では既にカヌー部が「上市町カヌークラブ」として地域クラブへ移行しているほか、硬式テニス、柔道、バスケットボールなどで、クラブ設立に向けた協議を継続している。

Q 運動部の地域移行が進んだら、学校では文化部だけが残るのか。それにより複数の入部を可能にできるのか。

A 地域クラブの設置ができない部活動は、運動部、文化部を問わず、学校内で活動を行うことになる。地域クラブも含め、それぞれで活動日や時間帯が異なる場合には、複数の地域クラブや学校部活動、地域でのサークル活動や習い事等を兼ねて行うこともできるため、より柔軟な選択が可能になると考えている。

Q 競技等を未経験の教員が顧問となっても、強くなる為の技術向上や礼儀、精神の向上が見込めるとは思わない。そうであれば、令和5年までの1年、ただらと時間をつぶすだけなので、

入部を促す必要はなかったのではと思う。その内容なら、令和4年の活動時間を週3日以内に決めて欲しい。夜のサークルや活動へも行かねばならない子の親はみんなそう思っているのではないか。技術指導が無いのに、月曜以外の4、5日の17時までの拘束時間は無駄であり、部としての在り方を即変更してほしい。

A 部活動は、生徒の自主性、自発的な参加により行われるものであることから、入部は任意としている。生徒一人一人が自分の生活や興味に合わせ、様々な活動スタイルを選択していただきたいと考えている。決して部活動の開始から終了まで生徒を拘束しているわけではない。

なお、令和4年度は移行期間であることから、これまでの活動日等を前提とし、スポーツエキスパートなどの外部講師も活用し、専門的指導にもできる限り対応していきたい。

Q 上市中学校でサッカーを続けるには、クラブチームへ所属し続けることになる。クラブでは部活と同様、それ以上活動している。以前にもサッカー部は移行が完了しているとの話があったが、移行とした認識でよいのか。

A サッカー部については、以前から部員のほとんどがクラブチームに所属し、部活動で活動する生徒がほぼ見られなかったことから、今年度より廃部としたものである。

Q 地域クラブへ移行となった場合、卒業アルバムへの対応はどうなるのか。

A 卒業アルバムには掲載する方向で考えている。

Q クラブチームへの移行となった場合、活動は土日になるのは当然なので、土日の学校行事はなくしてほしい。

A 学校行事は、そのような状況も考慮して計画すべきと考えているが、一方で体育大会や文化祭など、保護者の方が参観されたいと思われる行事については、土日開催を配慮する必要があると思われる。

Q 部活動は同じ学校の生徒たちが活動を通じて、同じ目標に向かい、練習などを頑張り、体力向上や集団行動での規律を学ぶなど情操教育にも貢献してきたことは学校も教育委員会も十分理解されていることと思う。学校で部活動を行えることの利点として、授業の後スムーズに生徒が集まれること、練習場所までの移動がないことがあげられる。

また、部活動に興味がなかった生徒も身近な友達が頑張っている姿を見て、自分も何となく部活動を始めた結果、その面白さに気付いて卒業まで頑張る、更にその後も続けていくということがあると思う。このようなことは学校以外では難しく、地域移行で失われる部分だと思う。

A 地域移行により全ての部活動がなくなるわけではない。地域移行ができない部活動は、今後も校内で顧問がついて活動を実施していく。ただし、将来的に生徒数、教員数の減少が見込まれる中で、現存する全ての部活動を維持していくことは難しいと思われる。一方でこれまでの部活動ではできなかった活動についても、地域の協力を得て、環境を整備していきたいと考えている。部活動が子どもたちの成長にとって大切な役割を担ってきたことは十分に認識しており、部活動の地域移行は、こうしたことも踏まえ、持続可能なものとして地域に活動の場を広げて

いく取組みであると考えている。

Q 一流の競技人や文化人ももともとは部活動がきっかけとなった人も多いはずである。そのようなピラミッドの底辺に部活動があると思うが、地域移行によりこの下地が無くなってしまっているのではないか。

A 地域クラブでは、より専門的な指導を行うことが期待できるため、活動を通して夢や将来の目標を持つ子どももたくさん出てくるものと思われる。また、学校内で行う部活動、地域クラブ、その他の習い事と、それぞれで活動日や時間帯が異なる場合には、複数の活動に参加することが可能になると考えている。青少年期においては、心身の成長に合わせ、より多くの体験を積むことが大切であることから、部活動の地域移行がその土台となるよう努めていきたい。

Q クラブチームの大会出場が進められているとあったが、富山県でもそうなのか。

A 中体連が主催する大会へのクラブチームの出場については、(公財)日本中学校体育連盟により検討が進められており、富山県においてもその決定に準じられるものと考えている。

Q クラブチーム側に丸投げし過ぎではないか。色々な家庭状況がある中、クラブ化により経済的に活動をあきらめる場合もあるのではないか。そのようなことも含め、準備ができていない中で、クラブ化を進めることに、子どもたち中心の考え方が感じられない。

A 町ではこれまでも部活動に対して、日常の活動費や全国大会等への出場に補助をしており、地域移行後も地域クラブに対し、この補助制度を継続する予定としている。ただし、指導者への謝金などについては、ある程度、家庭の負担は発生するものと考えている。

部活動の地域移行は、国の施策として取組みが進められており、困窮等により支援が必要な家庭については、国や県の動きも見ながら、町としてどのようなことができるか検討していきたい。